

舟形の冬を彩る
雪まつり

2月23日、24日、舟形雪まつり（雪見ナイト（Snow Night））があゆっこ村で開催され、多くの観客が訪れました。このイベントは、舟形町観光物産協会が主催となり舟形町の冬を楽しめるイベントの開発を目指し企画。幻想的な音楽とともに（株）Addwinによるプロジェクト「雪原を色とりどりの光が照らす美しい景観をつくりあげ、会場を大いに盛り上げました。観客はスマートフォンなどで写真や動画を撮



影する方も多く、ロマンチックなひとときを過ごしていました。また、会場には舟形町振興公社、マッシュルームスタンド舟形、酒場ラパンが特別出店し、観客に飲食物を提供したほか、ラテールではイベント限定のブッフェディナーを開催し、観客はプロジェクト「雪原を色とりどりの光が照らす美しい景観をつくりあげ、会場を大いに盛り上げました。観客はスマートフォンなどで写真や動画を撮

大きくなって
帰ってきてね

3月4日、ほほえみ保育園の園児17名が、「大きくなってね」の元気な掛け声で、サケの放流を体験しました。放流したサケは、最上小国川に遡上してきたサケを捕獲し小国川漁業協同組合の管理施設でふ化させたもので、この日園児たちは5万尾を放流し、3〜4年後の帰帰を願いました。



オーバードーズにならないように

2月22日、舟形中学校では全生徒を対象に、オーバードーズなどの薬物乱用の防止についての授業を、舟形調剤薬局の薬剤師佐々木唯さんを講師に迎え行いました。生徒たちは、簡単に手に入る市販薬でも過剰に摂取するとオーバードーズとなること、またその危険性について学びました。



いつまでも会話を
楽しめよう

2月27日、補聴器を専門に取扱う株式会社認定補聴器技能者を講師に迎え、町内の高齢者を対象に、耳の健康をテーマに補聴器の選び方や活用方法などを学ぶ健康教室を開催しました。耳の聞こえを維持し、人との交流を続けることで認知症などの予防にもつながるといわれています。



より良い舟形町を
目指して

2月22日、中央公民館で舟形町総合戦略推進会議が開催されました。この会議は委員10名により構成され、舟形町総合戦略の推進に関する事項について審議されました。総合戦略への取組みや数値目標や指標について概ね良好との意見が多く、今後のまちづくりに向け生かしていきます。



災害から復旧後の土地などを
めぐるトラブルに備えて



2月20日、町と山形県土地家屋調査士会が災害時における被災者支援に関する協定締結式を行いました。この協定は、町内で地震、風水害その他災害が発生した場合に、被災者支援のため土地家屋調査士が関与できる業務を定めるものです。災害発生時に土地家屋調査士会が町と協力し、「不動産の表示に関する登記についての相談」「土地の筆界に関する相談」「筆界特定の手続きに関する相談」を行います。

小林繁男さん
内閣総理大臣賞



小林繁男さん（新庄市）が第四十二回みちのくこけしまつり伝統こけしの部で内閣総理大臣賞を受賞しました。小林さんは、平成3年から鳴子系舟形長沢こけしを継承し、令和5年7月からは「未来工房」を馬形地内に移し、こけしなどの木製品を製作されています。舟形町のみなさんとは以前から交流もあり、ブナの実21の発足当時からともに活動をされています。今後は「舟形馬形こけし」としての発展を目指していきたいと意気込みを話されました。

大きなかぶを「うんとこ
しよ、どっこいしょ」



2月20日、読み聞かせグループ「ほほえみ」、めがみちゃん、ほほえみ保育園で劇を公演しました。

地域運営組織主催
スプリングコンサート



3月10日、スプリングコンサートが農村環境改善センターで開かれ、会場は美しい音色に包まれました。

能登半島地震被災地支援募金

町では、令和6年1月1日に発生した能登地方を震源とする地震で被災された方々を支援するため、義援金を受付しています。その経過についてお知らせします。

募金額 751,063円 (2月29日現在)

ウクライナへの募金

募金額 217,431円 (2月29日現在)

▼問い合わせ／舟形町総務課総務係 ☎(32) 2111 (内線232)